

CL-4-Ⅲ-03Y	テーラーメイド薬物治療	第4学年	後期 必修	1単位
担当者	池田 弘子			
一般目標 (GIO)	個々の患者に応じた投与計画を立案できるようになるために、薬物治療の個別化に関する基本的知識と技能を修得する。			
到達目標 (SBOs)	<p>【遺伝的素因】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 薬物の作用発現に及ぼす代表的な遺伝的素因について、例を挙げて説明できる。 2. 薬物動態に影響する代表的な遺伝的素因について、例を挙げて説明できる。 3. 遺伝的素因を考慮した薬物治療について、例を挙げて説明できる。 <p>【年齢的要因】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 新生児、乳児に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。 2. 幼児、小児に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。 3. 高齢者に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。 <p>【生理的要因】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生殖、妊娠時における薬物治療で注意すべき点を説明できる。 2. 授乳婦に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。 3. 栄養状態の異なる患者（肥満など）に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。 <p>【合併症】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 腎臓疾患を伴った患者における薬物治療で注意すべき点を説明できる。 2. 肝臓疾患を伴った患者における薬物治療で注意すべき点を説明できる。 3. 心臓疾患を伴った患者における薬物治療で注意すべき点を説明できる。 <p>【投与計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 患者固有の薬動学的パラメーターを用いて投与設計ができる。（知識・技能） 2. ポピュレーションファーマコキネティクス概念と応用について概説できる。 3. 薬物作用の日内変動を考慮した用法について概説できる。 			
受講心得・準備学習等	薬物は生体の生理機能に影響を与えて作用を発現する。薬物による疾病の治療を最適化するためには、患者それぞれが有する生理機能に影響を与える因子を把握することも重要である。本講義では、薬物の作用に影響を与える生体の要因を解説し、個々の患者への最適な薬物治療を考案する能力を培うことを目的とする。このため、生体の病態生理や薬理学、薬物動態学などの基礎的知識は事前に確認すること。			
事後学習・復習等	講義で扱った内容に関して整理するとともに、各要因によって影響を受ける薬に関する薬物動態ならびに薬理作用を復習し理解を深めること。			
オフィスアワー	講義のある日の17:00～19:00。他の時間帯も在室時は対応する。			

授業の形式と各回の内容

授業の形式		講義形式で行う。	
回	項目	内容	SBOコード
1	遺伝的要因 (1)	薬理作用発現に対する遺伝的影響	C15(3)-①-1
2	遺伝的要因 (2)	薬物の体内動態に対する遺伝的影響	C15(3)-①-2
3	遺伝的要因 (3)	遺伝的变化を考慮した薬物治療	C15(3)-①-3
4	年齢的要因 (1)	新生児・乳児での薬物動態と薬理作用の変化	C15(3)-②-1
5	年齢的要因 (2)	幼児・小児での薬物動態と薬理作用の変化	C15(3)-②-2
6	年齢的要因 (3)	高齢者での薬物動態と薬理作用の変化	C15(3)-②-3
7	生理的要因 (1)	生殖・妊娠時、授乳婦に対する薬物治療	C15(3)-③-1・2
8	生理的要因 (2)	代謝疾患を伴った場合での薬物治療	C15(3)-③-3
9	合併症 (1)	腎臓疾患患者の薬物治療	C15(3)-④-1
10	合併症 (2)	肝疾患患者の薬物治療	C15(3)-④-2
11	合併症 (3)	心臓疾患患者の薬物治療	C15(3)-④-3
12	投与計画	ポピュレーションファーマコキネティクス	C15(3)-⑤-1・2・4

成績評価の方法	定期試験の成績に受講態度を加味して評価する。
成績評価の基準	定期試験の得点が60パーセント以上を合格とする。受講態度によって10パーセント以内の範囲で得点を付加することがある。
教科書	必要に応じて、講義スライドのPDFファイルをダウンロードできるようにする。
参考書など	古田隆・柴崎浩美・横川彰明「テーラーメイド医療・薬物治療の個別化」(京都廣川書店) 日本臨床薬理学会編「臨床薬理学」(医学書院) 越前宏俊・鈴木孝「標準医療薬学・薬物治療学」(医学書院)